

岡崎市内景況調査結果(平成23年10～12月期分)

景況DIが全国平均を上回るまで回復

調査対象：本所各部会役員・幹事事業所 450 企業

有効回答：186 企業（回答率 41.3%）

調査期間：平成 24 年 1 月 5 日～平成 24 年 1 月 17 日

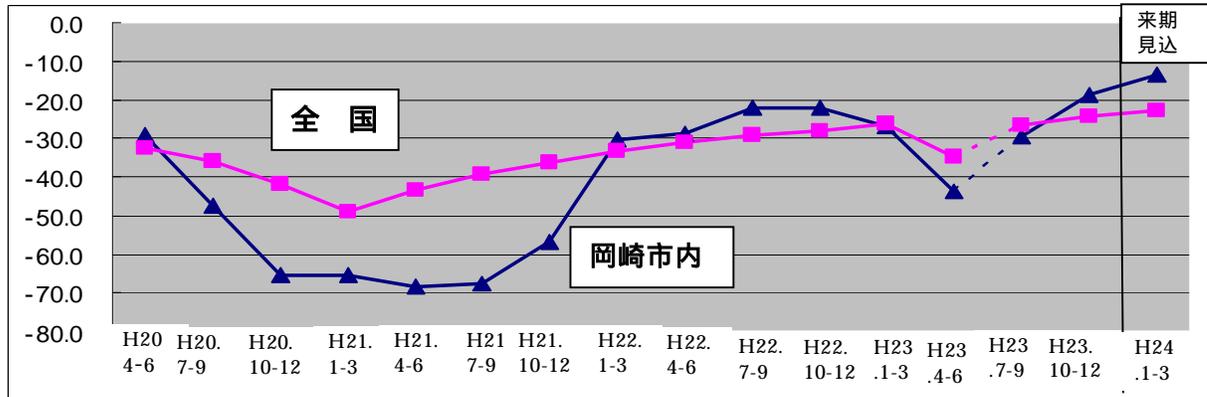
調査方法：ファクシミリによるアンケート方式

調査内容：(1) 前年同期(平成 22 年 10～12 月)と比べた今期の状況

(2) 今期と比べた来期(平成 24 年 1～3 月)の先行き見通し

業種	回答企業数	構成比
製造業	58	31.2%
建設業	37	19.9%
小売・卸売業	48	25.8%
サービス業	43	23.1%
合計	186	100.0%

市内の景況全体の概要



全国平均は、(独)中小企業基盤整備機構が発行する中小企業景況調査報告書より引用

(全国の商工会、商工会議所の経営指導員、及び中小企業団体中央会調査員による聞き取り調査。)

岡崎市内の今期(平成23年10～12月)景況DIは、18.8(前期比10.6ポイント増)で前期に引き続き改善した。

今期景況DIは、建設業以外の全ての業種でポイントが改善するとともに、平成23年1月～3月期以降東日本震災の影響により製造業の生産の落ち込みなどから全国平均を下回っていたが全国平均を上回るまでに回復した。

来期(平成24年1～3月)景況DIは、13.4(今期比5.4ポイント増)。円高の影響や製造業の海外シフトなど今後の先行きを懸念する声が全業界でみられるものの、回復基調は続くとの見通しであった。

【データ：全業種】

	前年同期比(前期) (H23.7-9月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.10-12月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.1-3月期)
景況	29.4	10.6	18.8	5.4	13.4
売上額	19.0	13.1	5.9	3.7	2.2
資金繰り	14.1	1.2	12.9	0.5	12.4
採算(収益)	31.9	9.3	22.6	9.7	12.9

売上額は、建設業では完成工事(請負工事)額

本報告書中のDIとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(上昇、好転)した企業割合から、「減少」(低下、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上額で「増加」30%、「不変」50%、「減少」20%の場合のDIは、30 - 20 = 10となる。

また変化幅は、「景況」、「売上額」、「資金繰り」、「採算(収益)」のプラス幅が増加し「」であれば企業経営にとって良好になっていることを意味する。一方「原材料仕入価格」、「製品在庫」では、変化幅が「」であれば、「増加」が増えていることから、企業経営にとっては悪化したことを意味する。

業種別の概要

(1) 製造業

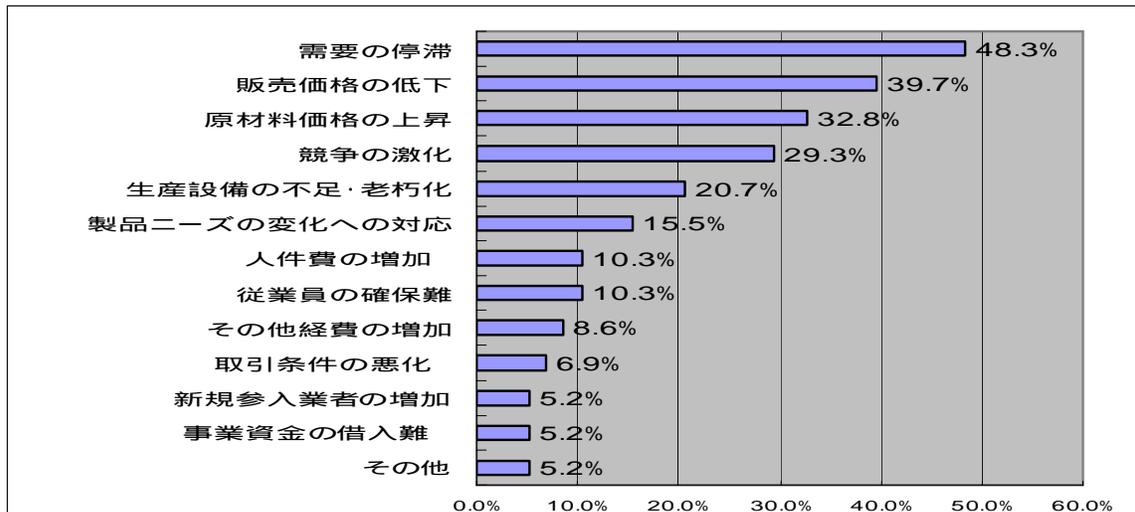
今期景況DIは 5.3 (前期比17.8ポイント増)。売上額・採算ともにプラスに増えていることから景況感も改善した。

来期景況DIは3.7 (今期比9.0ポイント増)とプラスに転じており、景況感も引き続き順調に改善する見通しを示した。

【データ：製造業】

	前年同期比(前期) (H23.7-9月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.10-12月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.1-3月期)
景況DI	23.1	17.8	5.3	9.0	3.7
売上額	7.5	23.0	15.5	7.7	23.2
原材料仕入価格	49.1	5.2	43.9	14.3	29.6
製品在庫	9.8	6.3	3.5	0.2	3.7
資金繰り	15.1	3.0	12.1	6.6	5.5
採算(収益)	32.7	18.9	13.8	13.8	0

【経営上の問題点】 複数回答



(その他)・販売先の変化・対応

- ・海外向け部品(自動車部品)の現地調達化、国内・東北地区・九州地区の現地調達化推進による三河地区での発注減

【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・円高による海外シフト・海外製品との競争で、価格・量ともに大変厳しい(自動車部品)
- ・製造業、百貨店、スーパー等、今の半分(食品)
- ・取引先が海外進出する事が今後増え国内需要は弱まってくる(自動車部品)

(2) 建設業

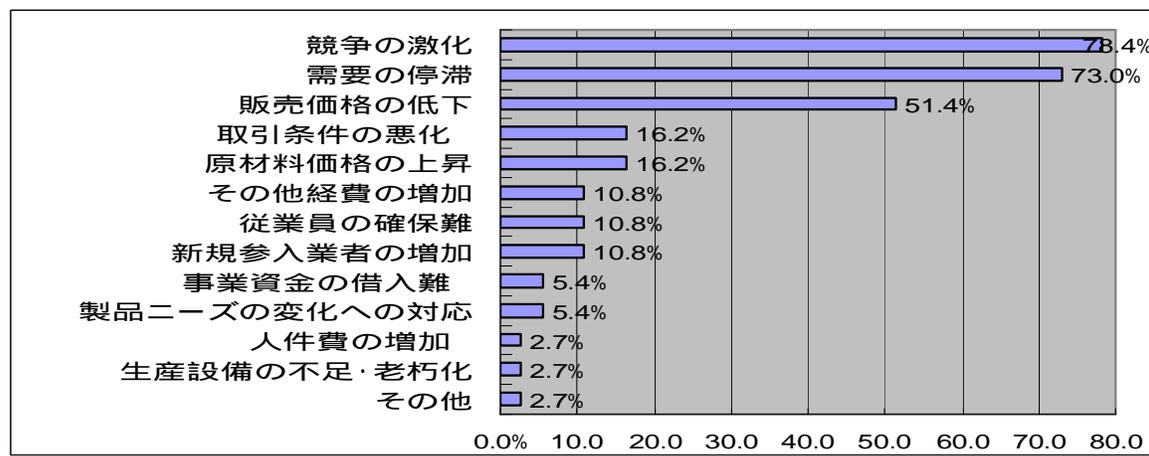
今期景況DIは 47.4 (前期比6.2ポイント減)。完成工事額、受注額が減少し、採算も悪化しており、景況感は前期よりやや微減して依然として厳しい状況にある。また完成工事額、受注額が減少し、資材仕入価格は上昇していることから資金繰りが悪化している。

来期景況DIは、42.1 (今期比5.3ポイント増)。景況感はほぼ変化がなく、全体として来期も停滞感が続くと思われる。

【データ：建設業】 複数回答

	前年同期比(前期) (H23.7-9月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.10-12月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.1-3月期)
景況DI	41.2	6.2	47.4	5.3	42.1
完成工事額	20.6	3.1	23.7	0	23.7
受注額(新規契約)	5.9	34.6	40.5	4.2	44.7
資材仕入価格	32.4	2.7	35.1	2.7	32.4
資金繰り	17.6	14.0	31.6	0	31.6
採算(収益)	35.3	25.2	60.5	15.8	44.7

【経営上の問題点】



【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

・まだまだ設備投資が低迷している。(設備業)

(3)小売・卸売業

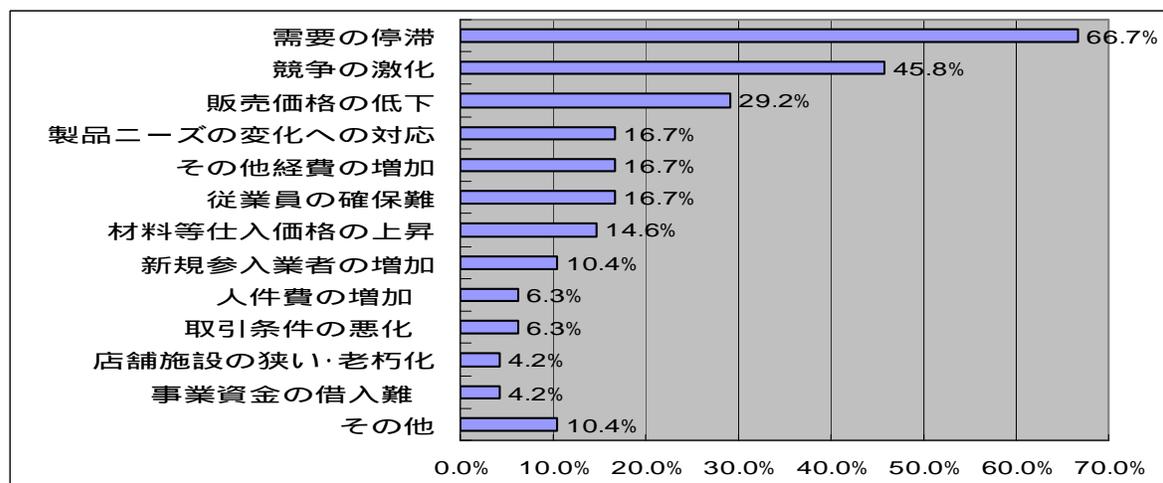
今期景況DIは 20.8（前期比13.4ポイント増）。売上額・採算ともにプラスに増えたことから景況感も改善した。また商品在庫が減少しているため資金繰りは良くなっている。

来期景況DIは、 15.6（今期比5.2ポイント増）。景況感は前期に引き続き改善すると見通している。また売上額が下がり、在庫が増え、資金繰りも悪化するとみている。

【データ：小売・卸売業】

	前年同期比(前期) (H23.7-9月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.10-12月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.1-3月期)
景況DI	34.2	13.4	20.8	5.2	15.6
売上額	21.1	8.6	12.5	3.1	15.6
商品仕入価格	50.0	16.0	34.0	9.0	25.0
商品在庫	2.6	19.3	16.7	14.4	2.3
資金繰り	10.8	2.5	8.3	5.0	13.3
採算(収益)	42.1	27.5	14.6	3.5	11.1

【経営上の問題点】 複数回答



(その他)・震災・タイ洪水等で消費が冷え込んでいる。また商品自体が洪水等の原因で入荷しない。

- ・放射線問題
- ・客先の海外シフト
- ・コンピュータ等の取替

【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・ヨーロッパ発の経済悪化が日本の消費の冷え込みにつながらないように願う(小売業)
- ・2月に豊田支社移転(石油販売)
- ・仏教離れの社会的影響を痛感します(仏壇販売)
- ・一般の生活が節約ムードになっている。例えば低価格の物の購入、成人の着物も母親や親族の着物を利用して新調しない。大きな金額の物の購入を控える傾向にある(写真業)
- ・人材育成が最も重要(小売業)
- ・オーダースーツの専門店として頑張っていきたい(洋服店)

(4) サービス業

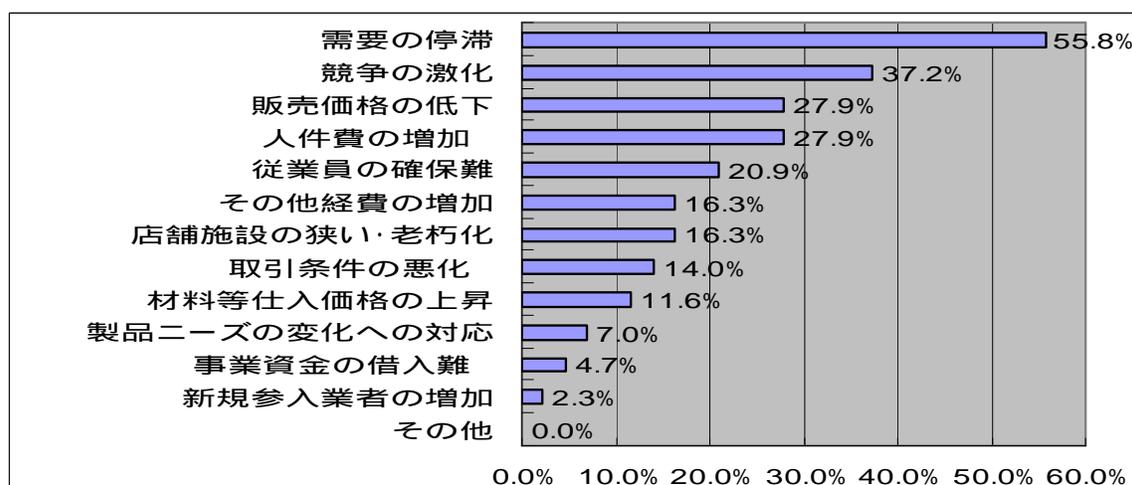
今期景況DIは 9.3 (前期比13.8ポイント増)。利用客数も上がり、売上額・採算ともにプラスに増えて景況感も改善した。

来期景況DIは、 9.8 (今期比0.5ポイント減)。来期の景況感は横ばいと予想している。

【データ：サービス業】 複数回答

	前年同期比(前期) (H23.7-9月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.10-12月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.1-3月期)
景況DI	23.1	13.8	9.3	0.5	9.8
売上額	30.8	19.2	11.6	9.2	2.4
利用客数	15.4	0.8	14.6	4.6	10.0
資金繰り	12.8	10.5	2.3	2.6	4.9
採算(収益)	17.9	8.6	9.3	4.4	4.9

【経営上の問題点】



【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・景況感は悪化と回答したが、若干悪化程度です。2009年をピークに国内の自動車の保有台数は減少に転じたのと、ハイブリッド・電気自動車の増加に伴う整備消費の減少が懸念される(自動車販売業)
- ・以前から取組んでいた合宿免許の好転と、地元取組みの効果現れる。勝ち組と負け組がはっきりしてきたようです。(自動車訓練校)
- ・最近新聞を購読いただける読者の減少傾向が非常に目立ち、それに伴い折込も減少し悪循環が続いている日々です。(新聞サービス業)
- ・自動車産業は短期的には活況、長期的には停滞すると考える(運送業)